

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691600090		
法人名	ユニバーサル株式会社		
事業所名	ケアホーム舟橋あいの風		
所在地	富山県中新川郡舟橋村舟橋67-1		
自己評価作成日	平成28年1月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりに力を入れ、社会福祉協議会や近隣の利用者様のご家族様からの紹介を受け、様々なボランティアの受け入れを行なっています。また、晴れた日は立山連峰がとてもきれいに見えます。住み慣れた地域で、楽しく笑って生活する事ができるよう、職員一人一人が考え、創意工夫をもった介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「考える介護」のもと、管理者と職員は、「利用者が今望んでいることは何か」「今一番かけてほしい言葉は何か」を常に考え、利用者に寄り添った介護を実践している。また、「介護職員は宝」という考えのもと、介護職員の採用は希望・要望を受け入れ、原則正職員として採用されている。その結果、職員から「働きがいがある」「職員同士の協力体制があり、困ったときにいつでも相談できるので安心」という声が聞かれる。のどかな田園に囲まれた事業所は隣接する特別養護老人ホームや同一法人が運営するグループホームの行事等に参加して交流を深めるなど、できる限り開かれた事業所づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目に入る所(事務所や休憩室、フロア内など)に掲示し、理念の共有を行なっている。	「利用者様、ご家族様の最高のパートナーとして存在したい」という福祉コミュニティ「あいの風」の理念は、ホームページに掲載され、施設玄関に掲示している。また、契約の際には利用者及び家族等に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会を通して地域のボランティアとの交流を行ったり、小学生とも交流ができています。また、年に一度納涼祭を行ない、地域の方にも参加をいただいている。	地区社協を通して小学生やボランティアの訪問がある。また、納涼祭には隣接アパート住民や施設利用者の参加がある。	地域との信頼関係は事業所自体が日常的な交流を積み重ねて生まれる。自治会が取り組んでいる地域清掃活動などに参加し、地域住民との顔の見える関係作りを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やボランティアの子供たちが施設に来られた際に、認知症の方に対する接し方や声の掛け方などを理解していただけるよう説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開き、地域の方や行政の方と話をし様々なアドバイスをいただき、ボランティアの受け入れなどの実績に繋がっている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、利用者家族代表、民生委員、舟橋地区自治会長、舟橋村役場生活環境課職員、地域包括支援センター職員等から提供される地域の実情やニーズを把握し、施設のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のほか、空きが出た場合や地域のサービスについて知りたいことがあった場合などに逐一連絡を取り、良い協力関係が築けている。	運営推進会議には役場職員が出席され、事業所の実情を把握している。また、村役場や地域包括支援センター、他法人が運営する特養がグループホームの近くに立地していることもあり、役場職員等が直接訪問され、気軽に相談・助言していただく関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういったことが身体拘束に該当するのか、を代表者が研修で学び、全体ミーティングで勉強会を開いた。玄関の施錠は夜間のみとしている。	福祉コミュニティあいの風のHPIには、あいの風の理念とともに、「あいの風介護指針～介護に対する私たちの姿勢～」には、身体拘束をしないケアを宣言している。また、福祉コミュニティグループが開催する研修会にはグループホーム管理者が出席し、月1回開催されるグループホーム内の全体ミーティングで全職員に対して研修内容を報告している。日常的には、職員間で「言葉づかい」について互いに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対する言葉遣い・接遇に関し、職員がお互いに注意し見直しができるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護推進委員の研修を受講し、分かりやすいように職員に伝え理解ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、家族の質問や疑問に対しても丁寧に分かりやすい説明を心がけている。また、事業所としての取り組みや方針などについてもご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や受診時には家族様に利用者様の現状をお話し、要望や意見など、会話の内容を職員にも伝え共有し、運営に反映させている。	年1回開催する家族会の場や面会時に意見を伺うなど積極的に取り組んでいる。ご家族から出された意見は伝達ノートに記録され、職員間の情報共有を図るとともに、サービス向上に取り組んでいる。	担当職員が積極的にご家族とのかかわり、ご家族との信頼関係構築に努めているが、更なる信頼関係構築のため、ホーム長がご家族と直接話し合う場を設けるなどして、ご家族のサービスに関する意見を拝聴する機会を設けられることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た提案や意見に対し、事業所の方針と照らし合わせた上で、事業所の運営が良くなると判断したものについては反映している。また、法人代表や役員が年に一度、個別面談を行ない、職員の意見を聞く機会を設けている。	グループホーム内では、フロアリーダーを中心にフロアミーティングが開催されている。その場で出された意見や提案はGH全体ミーティングへ、さらに法人の事業所会議に反映されている。昨年からは法人本部に人材管理部を設置し、担当部長が直接、職員の悩みや希望、要望を聞きとるなど、職員のモチベーション向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行ない、職員のがんばりが反映されるよう取り組んでいる。また、職員の能力を考慮し定期的にフロア内での人事異動を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で初任者研修を受講することができる。また、希望者は法人外の研修を受講ができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中新川のグループホームの連絡協議会や、地域の介護支援専門員の協会の勉強会などに参加し同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時のアセスメントに力を入れ、本人様の困っていること、不安な気持ちを受け入れ、生活歴なども参考にしながら安心して過ごしていただけるような雰囲気作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所に関し不安なこと、要望などをお聞きし、家族様とじっくり会話をする時間を持つよう心がけている。また、専門用語ではなく分かりやすい言葉を使うよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人様からの話に加え、以前担当しておられたケアマネージャーからも情報の提供を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や片づけを利用者様にもしていただき、共に「生活を支える立場である」ことを認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の現状をお話し、希望の物を持ってきていただいたり、外食や外出等も希望があればいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限などはせず、誰でも気軽に来やすいような雰囲気作りに努めている。また、利用者様が住んでおられた地域の建物へ出かけたり、といった支援を行なっている。	利用者ができるだけグループホーム利用前の生活が継続できるよう、職員とともに通い慣れたスーパーでの買い物支援を行っている。友人・知人等がいつでも訪問していただけるよう面会時間をできるだけ制限しないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を考慮し座席の配置を考えたり、共同作業や会話ができるように、職員が間に入り関わりを持てるよう、考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所になった場合など、必要に応じて情報の提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望に耳を傾け、よりその人らしく生活ができるように職員同士で検討している。意思疎通が困難な場合でも、職員本位ではなく、その人だったらどうしたいか、を考えるようにしている。	医療情報やADLのみならず、本人の要望、特に、グループホームでどのように暮らしたいか、という要望を、「福祉コミュニティあいの風」独自に作成したアセスメントシートに基づいて、個々の思いを大切に介護を行っている。日常的には、利用者のつづやきを「あいの風様式シート」に記録し、思いの実現、リスクの軽減に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様からの聞き取りをもとにアセスメントを作成し、職員間での情報共有を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を通じて、一日の本人様の過ごし方や気分の変動、出来ること出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の要望をお聞きし、現状を踏まえたうえで、職員間で話し合いを持ちケアプランへの反映を行なうよう努めている。	介護計画は原則6か月ごとに見直しが行われている。スタッフは日常的に介護提供場で観察し、把握した気づきや改善策を介護記録に記載している。記載された改善策は、ケアマネージャーであるホーム長が情報整理・統合し、モニタリングに反映され、介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録ができるよう、介護記録と同じファイルにケアプランをコピーし貼付している。また、気づきや日々の変化をもとにフロアミーティングで定期的に話し合いをする機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力機関や他の事業所とも連携を図りながら、様々なニーズに対応できる事業所を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問理容サービスやボランティアの方に来ていただき、利用者様が顔なじみの方に会うことで安心して過ごしていただけるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前からかかっておられた主治医の先生への受診を続けていただくとともに、情報の共有ができるように、看護師が日々の様子を記した「受診手帳」をお渡ししている。	利用者全員は、入居前からのかかりつけ医で受診を継続している。通院付き添いは原則、家族で行う。その際には、看護師がグループホームでの日々の健康状態を記載した「受診手帳」を渡し、医師・家族・GHの医療情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化や異変など、気付いたことは看護師に相談し指示を仰ぐようにし、必要に応じた処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が看護サマリーを作成し、病院の担当者に渡している。また、退院時はケアマネージャーが病院へ赴き、地域連携室の担当者や担当看護師からの情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応については、契約時にお話ししている。実際にグループホームでの生活が難しくなった場合は、家族の要望を踏まえ、他の事業所と連携を図っている。	「重度化対応・終末期ケア対応方針」に基づき、緊急時においては、家族の意向、主治医の判断に基づき対応している。非常勤であるが看護師が滞在しているので、万が一の適切な対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時に職員がどのように動けば良いのかを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。また、事務所に洪水ハザードマップを掲示している。	年2回、消防署の協力のもと避難訓練を実施している。また、事務所に洪水ハザードマップを掲示している。	「ケアホームあいの風舟橋」の周辺には白岩川があることから、避難場所に指定されている舟橋村役場への移動にかかる時間を計測するなど、万が一の場合に備えることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への接遇や言葉遣いについての勉強会を行ない、利用者様本位の対応を行ない尊重する気持ちを忘れないよう、職員一同心がけている。	法人本部の人材育成委員会の研修やグループホーム内の研修では、言葉遣いの重要性が取り上げられている。言葉の乱れは介護の質の低下をもたらすという考えのもと、日頃から職員間で言葉の乱れを相互チェックする体制ができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の気持ちを言いやすいよう、職員も関わりやすい雰囲気心を心がけている。また、関わり方や声の掛け方も、利用者様が自分の好きな方を選ぶよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務やマニュアルを優先するのではなく、利用者様の動きや体調に合わせてレクリエーションの参加を促したり、お部屋で休んでいたたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に好きな洋服や上着を選んで着ていただいたり、床屋さんが来られた時には本人様の好きな髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の調理や盛り付けを利用者様と一緒に進めたり、昼食会や鍋パーティーなどを企画し普段とは違う楽しみを持っていただけるよう支援している。	月1回程度、利用者ともに、食材を購入し調理して食事する「食事会」を開いている。焼肉、すき焼き、鍋など季節にあった食事を楽しんでいる。また、グループホーム内の畑にすいか、とうもろこし、ナス、トマト等を栽培し、収穫を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事形態を工夫し、バランス良く栄養が取れるようにしている。また、食事量や水分量は介護士・看護師がチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に、声掛けを行ない口腔ケアを行う。利用者様の状態に応じて見守り、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にし、ひとりひとりの排泄リズムの把握に努めている。利用者様の状態に合わせ、必要時はトイレ誘導を行っている。	利用者ごとの「排泄・水分摂取チェック表」に基づき適切な排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と連携を図りながら、薬だけに頼らない方法(運動をしたり、水分摂取を促したり)を推進している。慢性化している方に関しては下剤の調整を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2日、という設定はあるが、希望時はそれにとらわれず臨機応変に対応している。	日曜日以外、毎日入浴できる体制がある。入浴することを望まれない利用者にも最低週2回気持ちよく入浴していただけるよう言葉、態度に留意した入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に応じて日中の休息を促している。また、夜間にゆっくり休めるように日中の時間はレクリエーションや軽作業などで活動量を増やすよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合など、看護師が随時服薬の内容や副作用について職員間で共有できるよう、口頭や文面で説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントをもとに、利用者様が以前しておられたことや好きなことをレクリエーションに取り入れ、気分が少しでも明るく、楽しいものになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外で散歩をしたい、といった要望がある場合は職員が横に付き添い行なっている。また、施設の行事に合わせ戸外へ出かける事も企画している。家族様には、定期受診をお願いし一緒に出かける機会を持っていただいている。	春は花見で常願寺公園、オレンジパークへ、秋は呉羽山で紅葉見物へ行くなど、お弁当を持って出かけるなどしている。日常的には近くのスーパーでの買い物支援や舟橋村図書館へ出かけるなど、利用者の要望に沿ってできる限り外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より一定額のおこづかいをお預かりし、職員と一緒に買い物に行った時や外の自動販売機で飲み物を購入した時などに声掛けを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りに制限は設けておらず、家族様の了解を得た上で自由に電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調の調節を行ない、利用者様に不快な思いをさせないよう努めている。また、季節感を大事にし季節の花や掲示物をフロアに置くよう心がけている。	利用者がくつろぐリビングは、対面式の台所が見え、調理する匂いや音が漂っている。窓からは立山連峰が一望でき、季節の花が活けられ、明るくゆったりした居心地の良い空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の環境を定期的に見直しし、テーブル席やソファなどで利用者様が思い思いに過ごすことができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の居室には馴染みのものや使い慣れたものを自由に持ってきていただき、部屋でほっと安心出来るような環境づくりを心がけている。	利用者の部屋に文机、衣装ケース、写真、自作の書や絵画、などがおかれ、一人ひとりの思いや個性あふれる部屋づくりの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりや案内表示を設置しトイレの場所がわかるようにしたり、居室の場所がわかるように名前を掲示したりといった工夫を行なっている。		

(別紙4(2))

事業所名 ケアホーム 舟橋あいの風

作成日: 平成 28 年 3 月 28 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域のボランティアの受け入れは行なっているが、事業所側から地域の行事に参加する機会がほとんどない状態である。	地域の住民の方に気軽に「こんにちは」と話しかけてもらえるような、地域にとって身近な存在になること。	自治会で行なっている清掃活動や、村の神社のお祭り、村が春や夏に企画している祭り行事に参加する。	12ヶ月
2	10	ご家族様の面会時に利用者様の日々の生活や変わったことなどを報告する事はあるが、家族の意向を聞く、ということをしていなかった。また、主にホーム長や看護師がご家族様と関わることが多く、担当職員と家族との関わりはこれからである。	ご家族様に、ここのホームの職員なら安心して家族を任せられる、とっていただけるような信頼関係の構築。	家族様の面会時には、担当職員も交えて話をする機会を設ける。また、ご家族様が気になっておられる事などを聞くよう心がける。	12ヶ月
3	35	事業所に洪水ハザードマップを提示したり、避難訓練を行なってはいるが、実際に避難場所まで避難・誘導する事がなかった。	火災訓練・自然災害時の訓練ともに、実際に避難場所まで避難・誘導し避難時のイメージをつかむ。	避難場所である舟橋村役場まで、実際どれくらいの時間がかかるか実測する。また、隣町の同事業所への避難も検討する(実際に行なってみる)。また、近隣の福祉施設への協力も願う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。